

令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果 京都市立横大路小学校

4月に実施された全国学力・学習状況調査の結果がまとまりました。本調査は、6年生を対象に、国語の学力と学習状況について調べたものです。本校では児童25名が調査に参加しました。今年度は、国語科と算数科の調査が実施されております。また、家庭での過ごし方などを問う調査も同時に実施されています。生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果

国語の平均正答率は56%で、京都府平均(64%)、全国平均(60.9%)を下回る結果となりました。特に「知識・技能」や「情報を整理して考える力」に課題が見られました。算数の平均正答率は50%で、京都府平均58%、全国平均56.4%を下回りました。特に「数と計算」「図形」「測定」の領域で全国平均との差が見られます。一方、国語の「書くこと」「読むこと」においては、全国平均を上回り、必要な情報を見つけたり、引用して自分の考えを書くことに強みが見られました。

一方で、「主体的に学習に取り組む態度」は全国平均を上回っており、学習に前向きに取り組もうとする意欲の高さがうかがえます。

国語科

児童質問紙では、

- ・国語が好き……64%
- ・国語が得意……64%
- ・国語の勉強は将来役立つ……100%

という結果となりました。国語学習の価値を理解し、前向きな気持ちで学習に取り組んでいる児童が多いことが分かります。また、

- ・文章を読んで考えをまとめる学習
- ・引用して自分の考えを書く学習

については、全国平均を上回る児童が「している」と回答しており、日頃の授業で取り組んできた成果が表れています。

一方で、

- ・文章の特徴を理解する
- ・情報同士の関係を整理する
- ・自分の考えを伝えるための表現の工夫を理解する

の問題で正答率が低くなっています。また、家庭や学校外での読書習慣について、

- ・「全く読書をしない」32%
- ・「学校図書館を全く利用しない」44%

という結果も見られました。

やはり、言葉や文章で説明する力や根拠を明確にして考える力の育成の必要性が大きく感じられる結果となり、読書環境の整備・充実の必要性が大きく表れたと考えています。

算数科

児童質問紙では、

- ・算数が好き……64%
- ・算数が得意……52%
- ・算数の内容はよく分かる……68%
- ・算数は将来役立つ……100%

となっており、算数に対して比較的前向きな意識をもっています。また、

- ・友達と協力して課題を解決する
- ・自分の考えを説明する
- ・日常生活と学習を結び付ける

といった学習活動については、全国平均を上回る回答が多く見られました。特に、

- ・条件に合う小数を作る……96%

では高い正答率となりました。

一方で、

- ・百分率から基準量を求める問題…28%
- ・整数と小数の減法の計算……40%

となり、割合や小数の理解に課題が見られました。

「直方体の構成」や「直方体の面の関係」を考える問題でも全国平均を大きく下回りました。

分数の大小を理由とともに説明する問題、表の誤りを見付け根拠を書く問題など、やはり、考えたことを数や言葉で表現することに大きな課題を感じる結果となりました。また、算数の基礎となる「数と計算」の領域においても大きな課題があり、基礎基本の定着が必須であると言えます。

児童質問紙の回答状況より（学習習慣について）

平日の家庭学習時間について、全くしない…16%、30分未満…12%、休日については、全くしない…36%という結果でした。家庭での学習時間が十分でない児童も見られます。また、読書を全くしない…32%、学校図書館を全く利用しない…44%となっており、読書習慣の定着にも課題があります。

児童質問紙の回答状況より（学校生活について）

児童は、自分にはよいところがある…84%、先生はよいところを認めてくれる…88%、人が困っているときは進んで助ける…92%、学校へ行くのが楽しい…80%と回答しており、自己肯定感や学校生活への満足感が高いことが分かりました。これは本校の大きな強みであり、今後の学力向上を支える重要な土台となっています。

全体を通した本校の成果と課題

本校では、「夢を抱き、生き生きと輝く横大路の子」の育成を目指し、日々の教育活動に取り組んでいます。

今回の調査結果から、子どもたちは、学校生活を前向きに捉え、友達と協力しながら学習を進める姿勢や、自ら進んで学ぼうとする意欲が育っていることが分かりました。また、「学校が楽しい」「自分にはよいところがある」「先生が自分のよいところを認めてくれている」と感じている児童が多く、安心して学べる環境の中で自己肯定感を高めながら成長している様子がうかがえます。

一方で、学力面では、国語・算数ともに基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着に加え、複数の情報を整理して考えたり、根拠を示しながら自分の考えを説明したりする力に課題が見られました。国語では、文章や資料から必要な情報を読み取り、自分の考えをまとめる問題で、算数では割合や図形、数量の関係を説明する問題で苦手さが見られました。

また、児童質問紙からは、家庭学習の時間や読書の習慣に個人差があることも分かりました。そこで、以下のような取組を進めていきたいと考えています。

- ① 朝読書や学校図書館の活用を進めるとともに本に親しむ機会を増やし、読書活動の充実を図るようにします。
- ② 自分で学習内容を選んで取り組む自主学習の進め方を指導し、家庭学習の習慣づくりに取り組むようにします。
- ③ 「なぜそう考えたのか」「その理由は何か」を大切にしながら、友達と考えを交流したりする学習活動を積極的に取り入れていきます。
- ④ 一人一人の理解の状況に応じた学習支援を行うため、ICT機器も効果的に活用しながら学びの充実を進めていきます。

本校の強みを大切にしながら、基礎学力の定着と活用する力の向上に努めていきたいと思えます。

保護者の皆様へ

全国学力・学習状況調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもの可能性を更に伸ばしたり、課題を解決したりしていくためのものです。

学力は地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。また、学校だけで身に付くものではなく、家庭や地域での生活習慣や学習習慣とも大きく関係しています。今回の結果を真摯に受け止め、学校では授業改善や学習支援の充実を図ってまいります。ご家庭におかれましても、読書や家庭学習の習慣づくり、子どもたちへの励ましの声掛けなど、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。